

千葉県環境審議会鳥獣部会 ニホンザル小委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和4年1月12日(水)
午後2時から午後4時
- 2 開催場所 ホテルプラザ菜の花 榎
千葉市中央区長洲1-8-1
- 3 出席者
【委員】羽山伸一委員(委員長)、川本芳委員、役山多佳志委員、
榎本文夫委員、飯塚和夫委員、秋山賢次委員、吉野正恭委員、
松下順一委員

【県】能條自然保護課長、君塚副課長(鳥獣対策)、他自然保護課職員
- 4 議案
議案第1号
第5次千葉県第二種特定鳥獣管理計画(ニホンザル)(案)について
- 5 審議結果
上記4の議案について審議がなされ、原案どおり議決された。
- 6 その他
第1号議案については、令和4年3月11日開催予定の千葉県環境審議会
鳥獣部会での審議が必要であるため審議結果を報告する。
- 7 主な質疑
(委員発言…委、県発言…県と記載)
委 群れで捕獲する具体的な方策は。
県 今回の計画期間で評価を行い、群れ管理を行う科学的なデータを積み重ねてきたので、それに基づいて第5次計画から群れ管理を進めていく。県が実施するアカゲザルとの交雑対策での群れ捕獲の事例や、市町主体の群れ捕獲の事例を他の市町に広げていけたらと思う。

委 農作物被害金額が横ばいである一方、集落アンケート調査で被害意識が深刻化しているのはどういうことか。

県 推測にはなるが、サルの被害により営農をやめた分は被害金額に計上されないこと、家庭菜園等の被害が増えていることにより、住民のサルによる被害の意識が深刻化しているのではないか。

委 県が考える適正なニホンザルの頭数や生息範囲はどの程度か。

県 適正な生息範囲を決めるのは難しい。農林業や生活環境の被害が生じない程度に、本来の生息域である森林域にとどめたいが、具体的にどの範囲までを分布域とすべきかの判断は、今の段階ではデータが足りていない。その中で第5次計画では、1つの目安として、平成7年度の分布域を基準とした。

委 現行計画での失敗の原因に関する記載がない。現行計画では何が悪かったと考えるか。

県 今までゾーニング等で対策を実施してきたが、加害性の高い群れを計画的に捕獲できなかったことが被害金額や農家の被害意識の減少に繋がらなかったと考える。今後は農業被害を与えている群れを把握し、捕獲することで対策が成果に結びつくように群れ管理という方法を考えている。そのため、原因という形で明確に書いた訳ではないが、今までの課題を踏まえ群れ管理という形で記載している。

委 計画の中に具体的な予算額を盛り込むべきだと考える。予算規模がわからないと、計画の内容が実現可能かを判断できない。

県 具体的な予算額を計画に記載するのは難しい。新たな計画に沿って群れ管理を実施する旨を財政課にも強く伝え、予算を確保していきたい。

委 ニホンザルの分布域の東端はどこまでか。御宿町は含まれるか。

県 御宿町担当者の話では、町内に群れの生息は確認されていない。

委 交雑地域の評価結果において、アカゲザルの生息地域に近い地域で交雑が高いのは理解できるが、南東部に多い場所があるのはなぜか。

県 かつて勝浦市でカニクイザルが放し飼いにされ、そのカニクイザルの遺伝子が勝浦市周辺のニホンザルに残っている可能性があるという論文があることは把握している。

委 確証が得られていることではないが、県内における交雑はアカゲザルとカニクイザルのサンドイッチ構造にあるのではと考えている。

委 表4の交雑率の経年変化を比べてしまうと、交雑率があがってきていると

いう解釈になり、誤解が生まれる可能性があるのでは。

県 この表の扱いは悩ましいが、289 個体のうち 81 個体が交雑と判定され、ある程度交雑個体がみられるという結果は読み解ける。しかしサンプルはランダム抽出されたわけではなく、交雑疑いがある個体を選んで分析している可能性があるため、結果の解釈は慎重に行う必要があると認識している。

委 県が提案している 3 つのレベルという考え方は、被害の問題と交雑の問題を結び付け、全体管理の足場ができるものなので大事にしてほしい。

委 町はニホンザルの被害対策に苦勞している。大型檻を導入し捕獲に努めているが、設置場所の近辺で作付けの状況が変化し、群れが来なくなった。大型檻は 1 度設置すると移動が困難なため、GPS を装着して群れの動向を調査したいが、メスがなかなか捕まらない。

委 目標の一つに平成 7 年度の水準まで分布を縮小するとあるが、平成 7 年度以降に分布が拡大した地域の群れは全て捕獲してよいのか。分布前線の群れは対策を優先するとあるが、被害の少ない群れだとしてもこれを優先的に捕まえるのか。

県 分布の縮小を目標とするため、最近出没した群れは積極的に捕獲してもらいたいと考えるが、その群れの捕獲が適切かの個別の判断は、市町村担当者や専門家を集めた担当者会議の中で、周辺の群れ分布の状況等を含め判断していきたい。被害状況か分布前線かのどちらを優先するかは、市町の判断になる。

委 町にニホンザルが 20 群程度いるが、実施計画作成のために町が全ての群れの動向を把握するのは困難。県に実施していただけるのか。

県 最初から全ての群れを調査するのは難しいため、被害状況等を踏まえて対策を強化する群れを選んでいただければ。県としては発信器装着の支援を行っている。

委 ニホンザルは群れが隣接すると追い払いは困難で、加害性の高い群れを先に捕獲して隙間をあけることが必要。比較的加害レベルが低い地域は最初に捕獲しないほうがよい。様子をみながら捕獲していくのが良い。

委 町内のサルはもう少し北にもいる印象だが、いつの時点のデータか。

県 平成 29 年から 30 年の調査結果のため情報が古い可能性がある。

- 委 サルの被害が多く、農家さんの意識も低下し、人的被害も多くなっている。きちんと第5次計画を基に対策がとられていくのかを聞きたい。
- 県 計画に沿って進めていく。対策レベルや交雑レベル等は状況によって変わるので、適宜最新の情報に基づいて対策を進めていきたい。
- 委 天然記念物地域に指定されていて、サルの被害も多い。現在は1頭ごとに捕獲しているが、群れ捕獲が有効と聞いているので県と相談しながら良い対策があれば進めていきたい。
- 委 昨年度から県が開始した市町村捕獲個体の遺伝子分析については、効率化してほしい。5年間かけて実施するのであれば、4年間で捕獲個体の試料を蓄積し、最後の1年で集中的に分析を実施することを検討願いたい。
- 委 ビワの産地にニホンザルの分布が拡大することは防ぎたいので、協力をお願いしたい。
- 委 アカゲザルは大型檻、ニホンザルは小型檻・銃器で主に捕獲しているが、くくり罠等の捕獲手法を多様化したほうがいいのではないか。錯誤捕獲として捕まる個体が多く、捕獲効率は良いと思われる。地域限定で試してみる価値はあると思う。
- 県 箱罠以外での捕獲のデメリット等について有識者に話を伺いつつ、慎重に検討していきたい。